

財団法人山口大学教育研究後援財団「教職員海外派遣助成事業」 [成果報告書]

平成 25 年 9 月 30 日

1. 渡航者

所属	経済学部	職名	総務企画係長	ふりがな 氏名	わさき 和崎	かつし 克司
----	------	----	--------	------------	-----------	-----------

2. 派遣期間（移動日を含む。） 平成 25 年 9 月 23 日～ 平成 25 年 9 月 28 日（6 日間）

3. 交流の成果

台湾の実情や、大葉大学での外国語(日本語・英語)学習の状況、学生の生活などを実見できる有意義な研修となった。

- ・日本語を学ぶ学生の多くは、日系企業や、日本語を使う観光、貿易業などへの就職を望んでいる。日本に対しては、アニメ、漫画、テレビドラマ等のイメージから高い関心とあこがれを持っているが、実際に留学や旅行等で日本を訪れた学生はあまり多くない。山口県についてはほとんど知られていない。
- ・受入留学生は中国本土が最も多く、香港、マカオ、ベトナム、マレーシアが後に続く。留学生派遣ではベトナム、マレーシアに大学独自の「海外ボランティア」プログラムも用意されている。
- ・外国語学部は、英語に関する必修科目 16 単位。1～2 年次でリスニングとスピーキング、3～4 年次でリーディングとライティングを学ぶ。その他、学内で定期的にドラマ、朗読などのコンテストや TOEIC-IP テストが実施されている。[参考：事務職員も TOEIC を受験しており(職員全体の約 45%)、スコア 550 点以上は 90 人中 11 人とのこと。]
- ・今回の研修に付き添って案内していただいた応用日本語学科スタッフ(通訳)は、アルバイトの学生だった。大葉大学では、学内の業務の一部を学生アルバイトに委託しており、経済的に困難な学生への支援策にもなっている。
- ・大学が市街地から離れた場所にあることと、大学生活に慣れてもらう目的から、1 年生のほとんどが学内の寮で生活している。2 年生からは学外の下宿等を利用するようになるが、大学から概ね 5km 圏内を通学用のバスが 20 分間隔で巡回している(バスの運行状況はスマートフォンの専用アプリでも確認できる)。また、キャンパスの敷地が広く、山の斜面に設置され高低差があるため、学内諸施設を巡回するバスも運行している。
- ・ハラスメント防止や学生のメンタルヘルス(自殺予防)、生活支援等の対策を手厚く行っている。カウンセラーとの面談はネット上で予約できる。
- ・学内でニュース映像を制作し、大学のホームページで公開している。大学の社会貢献事業について、学長戦略部からの提案をもとに実施した例が紹介された。
- ・行政(事務系)職員は全学で 200 人程度。勤務時間は 8 時～17 時。職員及び職員の子が就学した場合は、一定の補助金支給や授業料割引等の制度がある。
- ・公文書の管理は電子化されており、作成及び決裁もネット上で行われる。決裁が一定期間滞った場合は、その当事者宛に警告メールが送信されるとのこと。

学歴社会で教育熱の高い台湾では、大学の設備や学生・教職員の福利厚生、教育プログラムに関して様々な取り組みが行われており、山口大学としても業務改善の参考になる事項が多かった。

平成 25 年 10 月 17 日

1. 渡航者

所属	工学部学務課	職名	学生係員	ふりがな 氏名	かなや 金谷	たかし 卓思
----	--------	----	------	------------	-----------	-----------

2. 派遣期間（移動日を含む。） 平成 25 年 9 月 23 日～ 平成 25 年 9 月 28 日（6 日間）

3. 交流の成果

- ・大葉大学職員による業務紹介のなかで、非常に参考になることがいくつもあり、山口大学でも、参考になる取り組みがあった。

大葉大学でのメンタルヘルス面での取り組みのうち、興味深いのは次の二点である。

- ①各クラスに補導係をいう役割を設け、仕事の一つとして彼らにカウンセリングの初歩の訓練を行い、クラスメイトにストレスなど、何か問題がありそうであれば担当教員からカウンセラーに報告が行き、迅速に対象学生と面談を行い、学生のストレス負担軽減、病院の紹介、自殺防止などにつなげているとのことであった。日本の大学にはクラスという概念がなく、社交的でない学生は他の学生とのつながりが薄いため、SOSのサインを発していても周囲に届かないことが多く、このようなクラスの友人関係のようなつながりを通じてSOSをキャッチする仕組みは新鮮であり、効果的のように感じた。ゼミ単位でゼミ長に「最近ゼミ内で様子がおかしい学生がいたら教えてくれ」といった、簡単なことでも、教員がゼミ運営の中で気付けない学生のSOSを掬い上げる手段となるであろう
- ②台湾の法律により、各大学に資源教室という部署を設け、身体障害、精神障害の学生の支援を行っている。その取り組みの一環として、健常者と障害者が同じボランティアなど従事することにより、障害について、健常者に分かってもらおう。といった活動もしている。日本ではとくに精神障害について、周囲に隠したがる傾向があり、このような取り組みが定着することは難しいと思われるが、山口大学では障害学生を一元的に支援する体制が整っておらず、精神障害については対象者の把握すら不十分な状況である。このようなサポート体制を厚くすれば、サポート希望のため、自身の障害を申告してくる学生も増えるのではないかと。

平成 25 年 10 月 10 日

1. 渡航者

所属	工学部会計課契約第二係	職名	一般職員	ふりがな 氏名	さいとう こうへい 斉藤 康平
----	-------------	----	------	------------	--------------------

2. 派遣期間（移動日を含む。） 平成 25 年 9 月 23 日 ～ 平成 25 年 9 月 28 日（6 日間）

3. 交流の成果

大葉大学での交流にて、大きく分けて「学生へのインタビュー」・「大葉大学キャンパス視察」・「大葉大学及び事務仕事について確認」・「英語授業の見学」の4つを行った。それぞれの詳細は以下のとおりである。

【学生へのインタビュー】

応用日本語学科の2年生約20人にインタビューをした。質問事項・回答は以下のとおり。

1. なぜ日本語の勉強をしようと思ったのですか。

（回答）日本に興味があったから。日本のマンガ・ドラマが面白かったから。

2. 日本に対するイメージを聞かせてください。

（回答）多くの学生は日本の街並みが美しく、人も親切との回答だった。

3. 山口大学に対するイメージを聞かせてください。（山口知っていますか？）

（回答）山口・山口大学は知らない。

このため、インターネットを使用して山口大学について説明した。

4. 外国語（日本語）を勉強する中で「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の中で

どれが一番難しいですか。

（回答）「聞く」・「話す」が難しいと回答する学生が多かった。

【大葉大学キャンパス視察】

大葉大学はキャンパスが広く、田舎の山頂にあるためか、寮・食堂・ATM・コンビニ等の学生が生活する施設が非常に充実していた。

まず寮に関して、費用は年間約5万～7万円と格安でキャンパス内にある。ベット数は2,087で、総学生数は10,263人であるため、約5人に1人は寮生である。（ひとり部屋は無く、一部屋を2～6人で使用している。）また、寮生の88%は一年生で、これは早く大学に慣れてもらうため、一年生を優先しているとのこと。

次に食堂に関して、店舗数は17である。土日も7時から20時まで各棟1つは必ず営業しているとのこと。

さらには、1泊約3,000円で宿泊できるホテルがあり、そこにはプール・ジム・ビリヤード場などもあった。

このように、キャンパス内で不自由なく生活できる環境が整っていた。

【大学及び事務仕事について確認】

事務職員の方に、大葉大学及び事務業務について説明をしていただいた。

・学生支援室

学生のメンタルヘルスについて。カウンセリングの予約はネットででき、どの時間帯にどの先生が担当かも分かる。また、学生支援室のオフィスは明るい印象を与えられるよう、照明や飾り付けなどに気を使っているとのこと

・国際交流

姉妹協定校の約3分の2は中国・香港の大学である。日本では本学の他に、室蘭工業大学・明海大学・長崎外国語大学が協定校である。

・秘書室

会議の効率化及び質を保つため、会議時間は1時間以内、一つの提案は5分以内としている。

・広報

社会情勢・公益性・地域性を総合的に判断して話題を掲載している。

・総務課

公文書・決裁文書を全て電子化している。決裁がどこまで回っているかを一目で確認でき、決裁遅いと催促メールが届く。

・人事課

職員の勤務時間は8：00～17：00

職員が夜間コースの授業を受講する際は30%OFFになり、多くの職員が受講しており、また職員の子供も授業料の割引がある。

職員外国語能力について（TOIECスコア）

225点以上・・・79人

550点以上・・・5人

785点以上・・・3人

【英語授業の見学及び英語教育の方針について】

・英語授業

他国でどのような外国語教育が行われているかを知るため、一年生のハイレベルクラスの英語授業に参加させていただいた。大葉大学では入学前にクラス分けのテストを実施し、個人のレベルに合わせた授業をおこなっているとのこと。参加した授業は「聞く」・「話す」が中心の授業だった。具体的には、まずYou Tubeにて英語のコメデ

ィーを視聴し、その後、与えられたテーマについてグループで議論し、発表していた。発表するとテスト時に1点アップするクーポンをもらえる。

- ・英語教育の方針について

外国語学部長の陳先生の説明では、外国語学部では卒業要件の128単位のうち16単位（他大学は4～8単位）の英語を必修としており、コミュニケーション重視の教育をしている。また、TOIEC成績優秀者には大学から賞金を出しており、学生のやる気を奮い立たせている。

以上、この交流をとおして、本学の業務を改善するために役立つのではないかと感じたことは3つあります。

1. キャンパスについて

私が勤務している常盤キャンパスと、大葉大学キャンパスでは、食堂の数・営業時間の違い、A T M設置の有無などの違いがあった。両校を取り巻く環境は違うため、単純に比較することはできないが、個人的に大葉大学は、学生がキャンパス内で多くの時間が過ごすことができる環境が整っていると感じた。本学でも学生からの要望を聞き、より良いキャンパスにしていきたい。

2. 事務仕事の効率化について

成果の箇所に記載したように、大葉大学では会議原則や電子決裁システムなど、事務仕事の効率化を推進していた。上手くいくかどうかは分かりませんが、本学でもこのような仕組みを導入したら良いかもしれない。

3. 語学を含むコミュニケーション能力について

海外に行くと語学力の重要性を痛感できる。また、今回、交流した応用日本語学科の先生・学生は非常に日本語が上手であったが、語学力だけではないコミュニケーション能力の重要性も再認識できた。こちらの学生は非常に学習意欲があり、積極的にコミュニケーションをとってきた。海外に行きたいという学生もいた。研修成果の箇所でも触れたように、大葉大学での外国語教育はコミュニケーション重視で行われている。日本においてもコミュニケーション重視の教育に方向転換しつつあるが、本学の学生には、積極的に海外に留学をしてもらい、異文化を実際に肌で感じてもらいたい。そのためには、私たち事務職員も学生にアドバイスできる知識・経験を積むことが大切なのではないかと感じた。